

はたらき者のお母さん

広島県 東広島市立西条小学校 三年

東谷 亮汰

「亮ちゃん、はよ起きんさい。ラジオ体そうの時間よ。」
お母さんの声です。ぼくは、三年生になつてもまだ、お母さんにおこされています。夏休みの今日も。時計をチラッと見つつ、ベッドでぐずぐずしていると、いきなり足首をつかまれ、ズリッと引っぱられます。ぼくは、さらに、
「もう、毎朝毎朝いいかげんにして！夜おそくまで、野球を見よるからじやろ。」
とおこられ、やつと起きます。

ぼくのお母さんは、ねるのがおそくても、家ぞくのだけよりも早く起きて、ごはんの仕度をしてくれます。リビングには、お父さんの服やハンカチ、水とうも用意してあつて、お父さんは、着がえるだけです。ぼくが学校の時は、ちゃんときれいなせい服があります。仕度が出来ると、かならずげんかんまでおこつて、
「いつてらっしゃい。気をつけてね。」
と、言つてくれます。ぼくは、てれくさくて、くつをひっかけながら、
「行つて来ます。」

と、げんかんをとり出すだけだけど、本当は、せ中にひびくそのお母さんの声がうれいのです。学校がめんどうだなと思う日も、その言葉を聞くと、ゆう気がわいてきます。

そんなお母さんは、家ぞくをおくつた後も、そうじやせんたく、買い物、花の水やりなどいろんな仕事をやっています。PTA

の用事や、絵本の読み聞かせボランティアで、週に何度も学校で見かけます。絵本は、

「子供たちに、もつと上手に読んであげたい。」と、言つて、アンサーの読み聞かせこうざに通つて、一生けん命練習しています。ぼくは、お母さんといつしよに本をえらんんだり、よんでもらうのが大すきです。

土日は、暑い日もさむい日も、ぼくのしよぞくする野球チームの練習や、し合につれて行つてくれます。練習の間もずつと、お茶当番やおしゃべりをしながら見てくれています。どろんこユニフォームを、ピカピカにしてくれるのも、お母さんです。

三月に、もうちようがはれつして、お母さんが入院した時、とても心ばいになりました。お父さんと家事をやつてみると、とても大へんことが分かりました。

だから、お母さんがいそがしそうな時は、出来ることを手つたおうと決めました。夕方、せんたく物を入れてたむと、

「まあ、亮ちゃんありがとね。たすかるよ。まだ九才なのに、勉強もスポーツもすこくがんばるし、優しいこともあつて感心するよ。金メダルあげなくつちやね。」
と、言つてくれ、うれしくなりました。

ぼくも言うよ、

「お母さん、いつもありがと。」